

大豆情報第3号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

本年の7月の気象は、平年に比べ平均気温は2.3℃高く、降水量は26%と少なく、日照時間は177%と多い状況でした。播種は6月末から始まり、7月初めに本格的に行われ、高温乾燥下での播種となりました。7月も引き続き高温乾燥状態が続き、全体的に生育はやや抑制されました。また、8月9日～11日にかけての大雨により、各地区で冠水による株の萎れや枯死、土砂流入の被害が発生しています。

1 排水対策および乾燥害対策

① 排水対策

- 排水不良のほ場は、**周囲溝と畝立て溝を設置して排水口とつなぎ**、麦わらの詰まりを確認するなど、大雨等の排水対策を徹底しましょう。

② 乾燥対策

- 乾燥害軽減として、暗渠栓を閉め、土壤水分を保持することも有効です。
※暗渠栓閉めを行う場合は、排水対策として明渠を施工しましょう。

2 中耕・培土

中耕培土を一度も行っていないほ場では、ほ場が乾燥し次第、中耕培土を実施しましょう。中耕培土は開花前までに行いましょう。

3 施肥（生育量確保、湿害対策）

大雨による冠水の影響で葉が黄化しているほ場や、生育量が少ないほ場では、開花期前に窒素2kg/10a程度を追肥することにより生育改善が見込まれます。
※中耕培土を実施していないほ場は追肥後、中耕培土を行ってください。

4 雑草防除

雑草の発生が多い場合は、除草剤散布や中耕培土、手取り除草を実施しましょう。

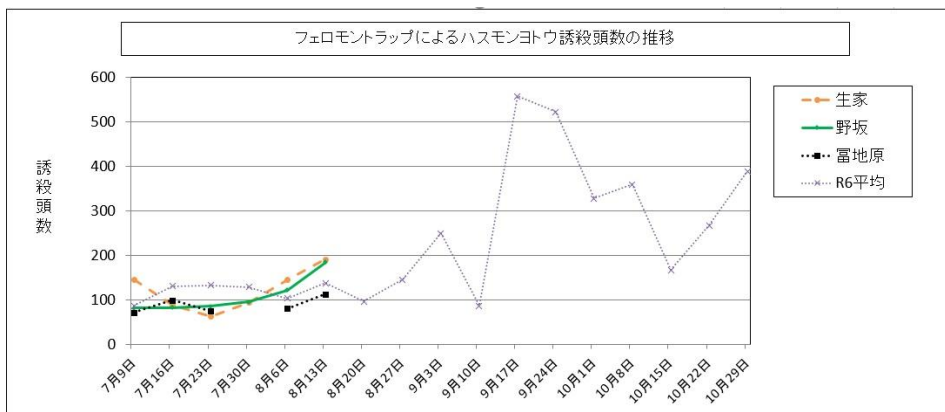
除草剤名	対象雑草	処理時期	使用量	希釈水量 /10a	使用 回数
ポルト フロアブル	一年生イネ科雑草 スズメノカタビラを除く	イネ科雑草3～10葉期 但し、収穫30日前まで	200～ 300mL	50～ 100L	2回
大豆 バサグラン 液剤	一年生雑草 イネ科を除く	大豆2葉期～ 開花前まで (雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで	100～ 150mL	100L	1回

※ **アサガオ類は蔓化する前までに**防除することが重要です。

※ 雑草の発生が多い場合は、バスタ液剤による**畦間処理（収穫28日前まで）**が有効です。

5 ハスモンヨトウ

8月13日のフェロモントラップの誘殺数は、昨年の同時期よりやや多い状況です。今後の発生は地域やほ場で異なるため、白変葉や虫の発生状況を確認しながら防除を実施してください。防除時期の目安は、フェロモントラップ誘殺ピークの10日後です。齢期が進むと防除効果が低下するため、若齢幼虫期に防除を行いましょう。



ハスモンヨトウ防除（白変葉が5株/aを超えるほ場）

剤型	薬剤名	対象病害虫	処理時期	使用量 /10a	希釈水量 /10a	使用回数
液剤	ノーモルト乳剤 (2000倍)	ハスモンヨトウ	収穫14日前まで	50mL	100L	2回
粉剤	トレボン粉剤 DL	ハスモンヨトウ カメムシ類	収穫14日前まで	4kg	—	2回

※液剤の場合、カメムシ類が多いほ場は、トレボン乳剤（1000倍）を混用してください。

【白変葉】



【ハスモンヨトウ幼虫】



★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄
- ④ 防除履歴の正確な記帳

※農薬登録状況：令和7年8月5日時点